

米沢地区保護司会に瀬戸山賞

半世紀にわたるつとめ市民に定着

更生保護活動で優れた功績のあった個人・団体に贈られる「瀬戸山賞」を、米沢地区保護司会(塚本祖玄会長)が受賞した。先月28日に東京都内で開かれた授賞式に塚本会長と本田勢治副会長が出席し、栄誉ある賞を受けてきた。塚本会長は「重みのある賞を受け感激。今後も会員一同精進し、瀬戸山賞に恥じない活動を行っていききたい」と喜びを語った。

元法務大臣で日本の

更生保護事業に理解を示してきた故・瀬戸山三男氏の功績を記念し、日本更生保護協会が平成11年に同賞を創設した。更生保護に関する学術的研究や広報活動で優れた功績を顕彰している。

同会は、7月の社会

を明るくする運動強調月間に「市民の集い・かくし芸大会」を毎年開催している。市民ら約1000人を集めて、作文コンテスト入賞作品の発表や顕彰を行うとともに、ボランティアによる舞踊や民謡、マジックなどの発表を通じて、社会を明るくする運動の広報活動に努めている。

は東日本震災による避



受賞報告のため市役所を訪れた塚本会長(左)

難者を招いて、地域の絆つくりに寄与したことなどが評価された。

4日には塚本会長をはじめ、山形保護観察所の高橋和己所長ら5人が市役所を訪れ、安部三郎米沢市長に受賞を報告した。安部市長は受賞を祝うとともに「不幸にして道を外れてしまった人たちに手を差し伸べる活動は重要」と保護司会に敬意を表した。

集い・かくし芸大会が50年も続いたのは先輩方が力を尽くしてきたおかげで、感謝している。これからも活動を継続していきたい」と決意を新たにしていた。